この「校長室便り」は，HP でも配信しています

気仙沼市立津谷小学校校長室だより

よく遊び　よく学べ

朝に仰ぐ

命を大切にし，夢や志をもってたくましく生きる児童の育成

つ　よい子良い子
や　さしい子
笑顔いっぱい　**津谷小学校**

気仙沼市立津谷小学校
校長　菅原　理恵
発行日　令和４年５月２５日（水）

臨時休業　御対応をありがとうございました

朝，昇降口で子供たちの登校を見守っていると，どの子も皆，笑顔で挨拶をしていきました。落ち着いた様子で登校する姿を見て，心の底からほっとしました。保護者の皆様には今回の臨時休業に際しまして，急なことにも関わらず御対応いただきありがとうございました。子供たちの様子や休業中の健康観察などのやりとりから，御家庭でしっかりフォローしてくださったのだなと感じます。また，保護者の皆様や地域の皆様からは暖かい励ましや労いの言葉もいただきました。本当にありがとうございました。

今朝は，臨時朝会を行い，主に下記のことを話しました。

○　みんなの元気な顔を見ることができてとても嬉しいこと
○　新型コロナウイルス感染症はまだとても流行っていて，感染してしまうことは誰が悪いということではないこと
○　優しさと思いやりはウイルスと戦う力になるということ
　「思いやり」「優しさ」「『ありがとう』の気持ち」をもって明るい津谷小学校をつくっていきましょうということ
○　これからも感染症予防対策をしっかりとっていきましょうということ

そして，作文を紹介しました。

作文は裏面に掲載します。「第４６回『小さな親切』作文コンクール」で，文部科学大臣賞を受賞した作文です。どうぞ御覧ください。

放送で行った朝会ですが，子供たちは，とても真剣に耳を傾けていたと聞きました。これからも感染症予防対策をしっかりととり，今年度の教育活動を充実させていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

文部科学省「差別・偏見をなくそうプロジェクト」動画を活用した授業を行いました

【内閣総理大臣賞】

心に咲いたおばあさんの花

福岡県 敬愛小学校　六年 安田 悠真

今年も彼岸花(ひがんばな)が咲く季節になった。道路沿いに咲いている彼岸花を見ると、僕は、いつかのやさしいおばあさんの笑顔を思い出す。

おばあさんに出会ったのは、一年前の初夏だった。僕が信号待ちをしていたとき、おばあさんは近所の植えこみの手入れをしていた。ちょうどコロナが流行して、外出自粛がさけばれていた頃だ。この影響で、年二回行われていた地域の清掃活動も中止になってしまった。

すると、どうだろう。いつもきれいだった道路沿いの花だんが、みるみるうちに雑草だらけになっていった。雑草は僕の身長を追い越して、ぐんぐん大きくなっていく。僕は、しかたがないと思っていた。雑草はいやだけれど、僕一人でどうにかできるものじゃない。近いうちにコロナが落ち着けば、またみんなできれいにできるだろうと思っていた。

でも、そのおばあさんは違った。たった一人で、自分の背たけよりもうんと高い雑草を刈り、小さな球根を植えていたのだ。僕は驚いて、その様子を見つめた。おばあさんが、球根をいとおしそうに両手で包み、そっと地面に植えていたからだ。まるで球根におまじないをかけるように。僕はどうしても気になったので、思いきって話しかけてみた。

「どうして、ここに球根を植えるんですか。」

おばあさんは、笑って言った。

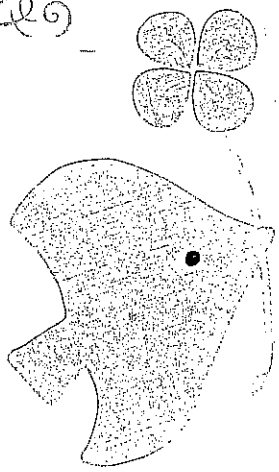
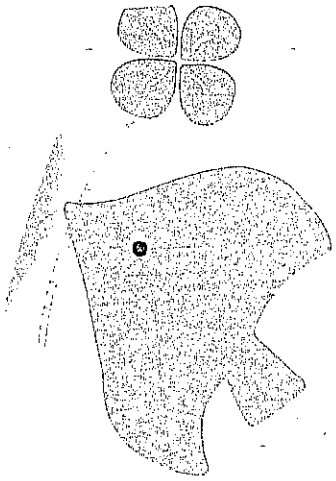
「花を見て、みんなに喜んでもらいたいの。コロナで大変なときだからこそ、誰もが元気にすごしたいと思っているはず。この花で、誰かが元気になったらいいなって。私も、誰かのお役に立てていると思ったら、うれしいの。秋には彼岸花が咲くから、楽しみにしていてね。」

僕はハッとした。今まで僕は、親切は目の前の困っている人のためにするものだと思っていたからだ。会ったこともない、話したこともない誰かのためにする親切もあるんだ。

僕の心に、おばあさんの笑顔と言葉がずしんと響いた。おなかの底が温かくなって、元気をもらえたような気がした。僕はおばあさんに、

「僕も元気が出てきました。ありがとうございました。」と言った。おばあさんが、

「あなたの心を元気づけることができて、今日はなんていい日なのかしら。」

と言って、ほほえんでくれた。そうしたら、おばあさんの笑顔が、僕の心に花のように広がって、じんわりとうれしかった。

彼岸花は今年も、目をうばわれるような、あざやかな赤い花を咲かせた。僕はその向こうに、おばあさんの笑顔を思い出している。今年も彼岸花が咲いたのは、きっと、おばあさんの手入れのおかげだ。おばあさんが僕の心に咲かせてくれたやさしさの花。僕はこれからも、この花を大事に育てていこう。今度は僕が、誰かの力になれるように。